

コロナ禍でTIMEを読む ー完全オンライン授業の試みと課題ー

東矢 光代（琉球大学）

mitsuyo108@gmail.com

日本英語教育学会・日本教育言語学会第**52**回年次研究集会

2022年2月26・27日

コロナでいきなり完全オンラインに・・・

- 2020年4月 前期の講義は原則オンライン
- 2020年4月26日から大学構内入構禁止
- ゴールデンウィーク明けの5月7日から講義開始

- Skypeはじめ双方向性のオンライン経験ほぼゼロ
- Webclassは対面授業と並行して使用経験あり
- 教職の模擬授業などでビデオ撮影の経験あり
- パワポ資料は作成可能。でもビデオに変換した経験は無し



上級英語演習（英語専攻3・4年次）

BEFORE

- 教職科目としてシラバスを提出し課程認定済み
- 4技能の育成を目標としてオーセンティック教材のTIME Onlineを使う
- アクティブラーニングとしてペア・グループワークを多用予定
- Mol: 原則英語のみ

AFTER

- TIME Onlineを使う
- Teams（リアルタイム）、Webclass（掲示板、レポート提出機能、リンク通知）、Stream（動画配信・視聴）、Flipgrid（動画投稿・視聴）、Google Forms（オンライン応答）
- Mol: わかりにくいところ、指示・確認は日本語も使用

オーセンティック教材

Authentic materials

- “[T]here appears to be general agreement that authentic materials are those that were originally prepared for communicative, social, non-pedagogic purposes, and they are often (though not exclusively) prepared by native-speakers for native-speakers.”
(Valvona & Yoneda, 2019, p.3)

先行研究

- 実際の文脈で実際に使われる言語に生徒を触れさせることができる。教室の外の世界とつなぎChallengingであることから、異文化理解、達成感・動機づけに資する (Azri & Rashdi, 2014; Berado, 2006; Rao, 2019)
- 教材選択の観点：内容の適切さ、発展性、読みやすさ、読み手の興味を引きそうかどうか (Berardo, 2006)
- 教材をどのように教えるか（授業計画・タスク）については、教員の裁量が大きい (Ryan, 2013)

育成したい能力と授業形態

1) 「21世紀型スキルの学びと評価プロジェクト（ATCS21）」 2009年

「デジタルネットワークを使った学習」と「協調的問題解決」を挙げ、この2つの包括スキル領域下に、以下の4つのカテゴリーに属する10の「21世紀型スキル」を提唱

- 思考の方法（創造性とイノベーション，批判的思考・問題解決・意思決定，
学びの方法・メタ認知）
- 働く方法（コミュニケーション，コラボレーション（チームワーク））
- 働くためのツール（情報リテラシー，ICTリテラシー）
- 世界の中で生きる（地域とグローバルのよい市民であること（シチズンシップ），
人生とキャリア発達，個人の責任と社会的責任（異文化理解と異文化
適応能力を含む））

2) 学習指導要領

- 4技能5領域（統合型）の英語授業
- アクティブラーニング

リサーチクエスチョン

RQ1. オーセンティック教材を用いた完全オンライン授業により、どのような情報が事前課題から得られ、それがどのように教員のレクチャーに反映され、変化や気づきをもたらしたか。

RQ2. 指定された4つのトピックカテゴリーに対し、学生はどのようなTIME記事を発表に選択していたか。

RQ3. 課題記事の理解に基づいた受講生のReviewはコロナ禍の学生の生活をどのように映し出し、教員はどのようにそれに反応したか。

RQ4. 受講生はオンラインの課題にどのような印象を持ち、4技能育成への効果を実感したか。オンラインのメリット・デメリットをどのように感じたか。

➤ 分析を通して、当時の「緊急・強制的な授業オンライン化」がもたらした教員・学生の授業・学びへの影響を検証したい。

研究方法

【参加者】

- 国立系大学で英語を専攻する3・4年次生で、受講生のうち提出物等を学術的分析に使用することを同意した20名のデータを分析
- 中間省察における「Have you ever tried reading TIME magazine BEFORE taking this class?」の結果では、Yesが3名（15%）、Maybeが3名（15%）、Noが14名（70%）

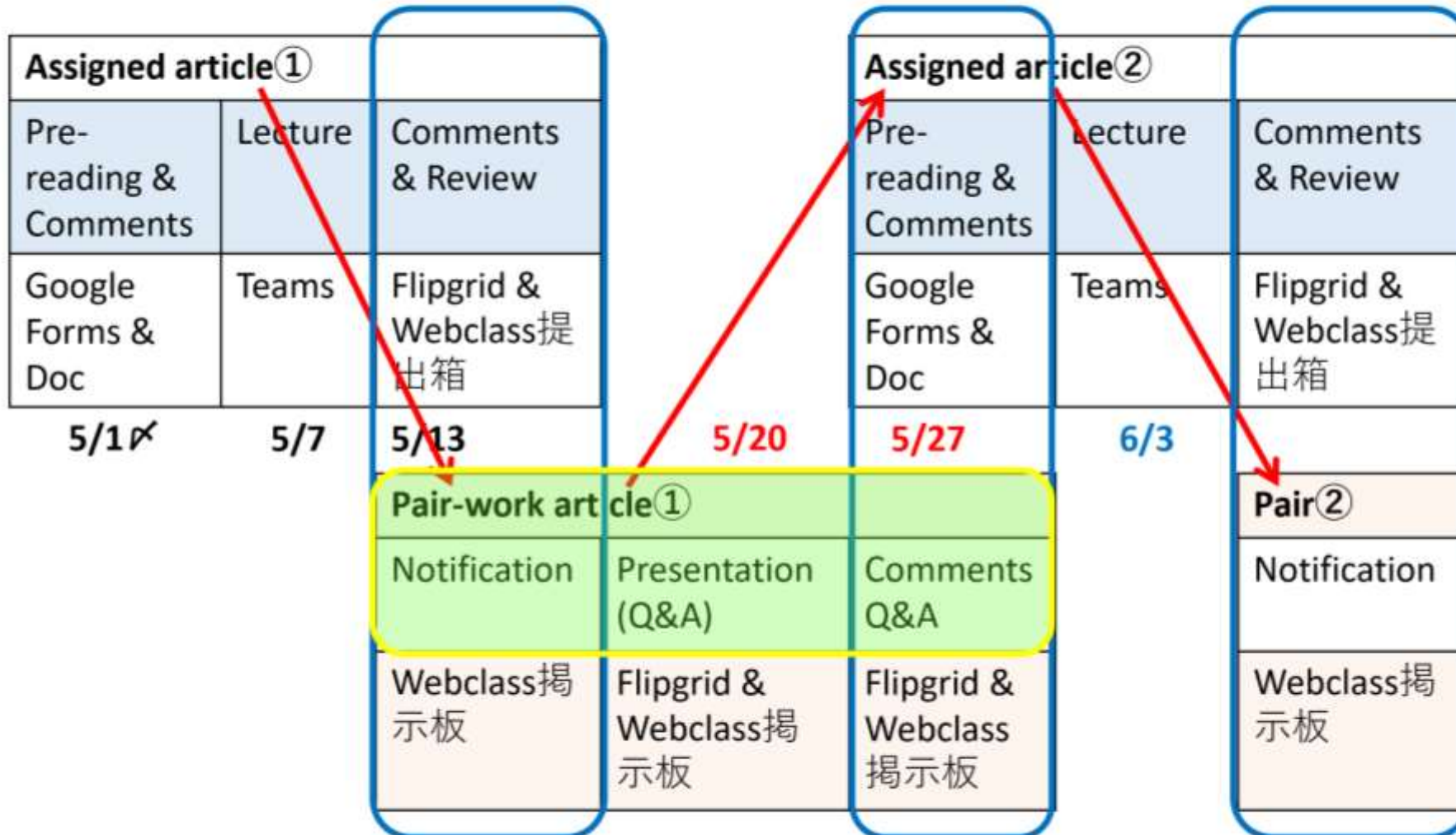
【授業概要・目標（2017年作成）】

本授業では、TIME Onlineの記事を読んで理解し、それを基にしたディスカッション、グループプロジェクトを行うことによって、以下の英語スキルを身に付けることを目的とする。

- (1) 科学、社会分野等における最新の知見を英語で理解し、内容を簡潔にまとめる。
- (2) テーマに基づいた資料について意見を述べる。
- (3) TIMEのテーマ記事を核として検索を行い、関連記事を探し、概要と推薦理由を述べたReviewを英文で書く。

課題のサイクル

実際の×切については、
Overviewのスライドで確認！

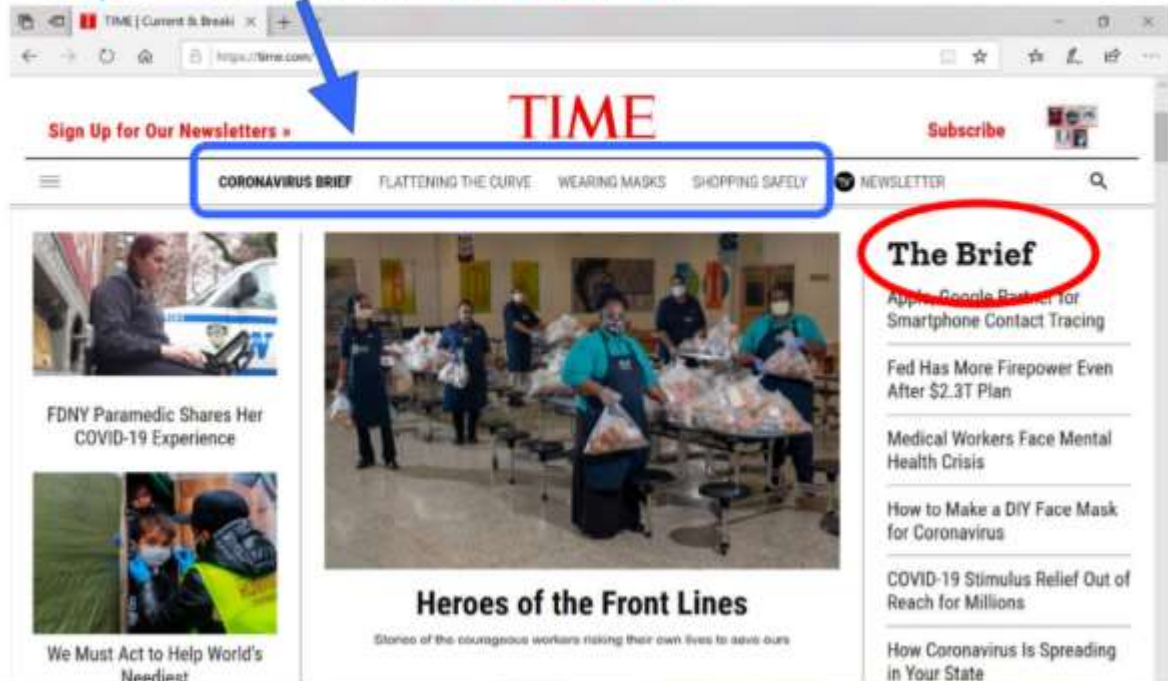


足並みがそろるか心配だったので、最初はゆとりを持たせて予定を組んであります。
実際の×切、予定は原則 Overview に従いますので、それに沿って進めてください。

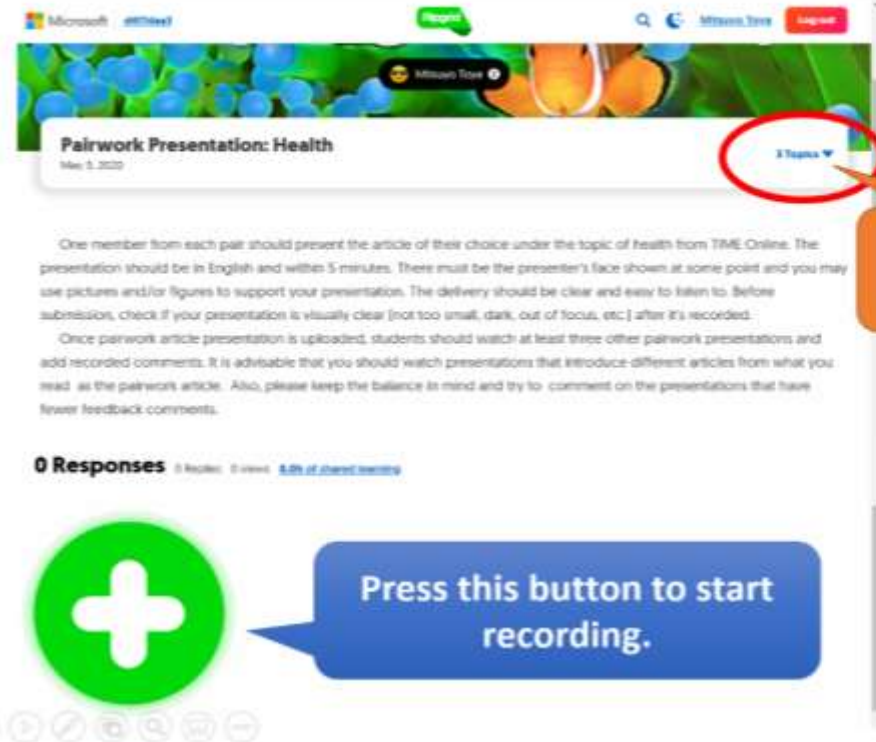
- とにかく教室でやろうとしていたサイクルを踏襲しようとした
(GroupはPairに変更)
- 教室の動きと時間外の学生の課題活動をすべて想定して書き出して組んだ

オリエンテーション・説明は
オンデマンド動画やスライド
資料に・・・

Time Online: What you see first Top Banner & The Brief



Pairwork article presentation



Choose the
topic (task)

toya0867

結果① 教員の変化

1. Assigned article (教員が指定した記事) を読み、Google formsでのPre-reading questionsに答えてもらう。また説明してほしい個所をGoogle Doc (後ではWebclass掲示板) で知らせる
 2. その結果を集約してレクチャー (Teamsの双方向性会議システム使用)
 3. 学生はレクチャー後、口頭コメントをFlipgridに、Review (300～400語) をWebclassに投稿提出
- 上記を1サイクルとして4回繰り返す

課題記事一覧

- The Coronavirus Outbreak Keeps Humans from Touching. Here's Why That's So Stressful (Health)
- Want to Stop the Next Pandemic? Start Protecting Wildlife Habitats (Science)
- 'Everything Has to Pass.' Why Dolly Parton Is Optimistic About Life After Coronavirus (Entertainment)
- The COVID-19 Pandemic Shows Why We Must—And How We Can—End Racial Injustice in Health (Ideas)

より学生の興味（選択記事のトピック）に寄せる結果に。

Pre-reading Questions (Google Forms)

The Coronavirus Outbreak Keeps Humans from Touching. Here's Why That's So Stressful [Health]

1. How did your behavior change in avoiding coronavirus infection?
2. What is “social distancing”? How far do you think is safe as a distance to others? Specify the situations if necessary.
3. What do you think is the reason of stress caused by touch restrictions?

Want to Stop the Next Pandemic? Start Protecting Wildlife Habitats [Sciebce]

1. Do you feel close to wildlife habitats? Why or why not?
2. What brought the COVID-19 to the world-wide pandemic? How did it start to your knowledge?
3. Do you think that keeping "biodiversity" in the wildlife habits is important? Why or why not?

もっと学生の状況をクラスで共有できる設問に…

'Everything Has to Pass.' Why Dolly Parton Is Optimistic About Life After Coronavirus [Entertainment]

1. Do you know a singer called Dolly Parton ?
2. Have you ever listened to her song titled "When Life Is Good Again"?
3. What song do you recommend to the classmates in this difficult time with the COVID-19 pandemic? Answer like "Song title" by "Singer's/Band's name". You can recommend more than one if you like. (It doesn't have to be an English song.)
4. Did your preference of songs and/or music change before and after the coronavirus outbreak?
5. What kind of person do you want to be after the COVID-19 pandemic?

The COVID-19 Pandemic Shows Why We Must—And How We Can—End Racial Injustice in Health [Ideas]

1. What do you know about the Black-Lives-Matter movement in the US?
2. How often do you see a doctor for your own treatment (before the pandemic)?
3. How much in a month do you spend on your healthcare (medicine, go to a doctor, etc.) on average?
4. Do you know anything about Martin Luther King (and his famous speech)?

リアルタイムで学生とつながる機会はレクチャー時（学期中4回）のみ。学生の反応をその場で引き出しやり取りすることは困難

Google Image Search [Wildlife habitat]



Google Image Search [Nature]



Google Image Search [Wild animals]



Do you feel close
to **wildlife habitats**?
Why or why not?
(野生動物の生息地)

- 回答した受講生22名中9名の学生がQ1にYesと答え、そう感じる理由として、地元のサトウキビ畑やよく見かける野良猫、幼いころによく行っていた野外キャンプなどを挙げた。（文脈からの意味の類推の限界？）
- ほぼ全ての受講生がNoと答えることを想定していた予想が覆されたことから、教員の記事の扱いが変化がし始める。

結果② 学生による記事選択とプレゼン・コメント (Flipgrid)

1. ペアでトピックに応じた記事を選び、タイトルをWebclass掲示板で報告（重複は2ペアまで）
2. 1名（Person A）がFlipgridで記事内容の紹介を動画で投稿。もう1名（Person B）は、その記事に対する教員からのWebclass掲示板の質問に英語で解答。
3. クラスの他学生のFlipgrid発表動画を視聴し、3名の発表に対し口頭コメントを動画で投稿。

➤上記を4つのトピックで繰り返す（A役を2回、B役を2回）

学生の興味（ペアによる選択記事）①

【Health】

- 10個すべての記事のタイトルに、COVID-19またはcoronavirusが含まれ、内容としては、ワクチン開発、治療法の開発、感染症研究の加速化、猫にも感染するとのWHOの報告、武漢や韓国といった海外のロックダウン後の感染者数の増加、感染症に苦しむネイティブアメリカンのコミュニティに送金したアイルランドの恩返しなどがあった。
- 2ペアが取り上げた重複記事が2つ：コロナ禍での食生活の変化、並びに、当時話題になっていた「女性より男性の方が重症化するのでは」という記事
- コロナの影響をうける社会的な差異を指摘する記事（Black and Asian People are 2 to 3 Times More likely to die of COVID-19. U.K. study finds）も1ペアが取り上げていた。

【Science & Technology】

- コロナの影響に関連する選択記事が多かった。
- アップルとグーグルによる接触アプリの開発に関する記事が1つ、コロナ禍で人間の活動が極端に減ったことによる環境への影響に言及した記事が3つ、オンライン化、テレワーク化の影響を反映した実用的な記事（ブルーライト対応、Zoom以外のオンラインチャットシステムの紹介、バッテリーを長持ちさせる方法やWi-Fiスピードを上げる方法）
- 香港情勢と人気のソフト（あつ森）を掛け合わせた記事、DNAテストによる自己診断や小さい時のトラウマの影響の記事も選択されていた。

学生の興味（ペアによる選択記事）②

【Entertainment】

- オスカー賞のセレモニーの延期や音楽フェスティバルが開催できないアメリカの町の経済危機、ディズニーランド・ワールドが社会的距離を取っての再開を検討。
- **LGBT関連記事**：ピクサー社が初めてLGBTを主人公にしたショートムービーを公開した記事（重複2ペア）。LGBTの女性をめぐってのJ.K.ローリングの発言と、それに反論するハリーポッターの映画に出演した役者についての記事（3ペア）。
- **黒人問題記事**：公民権運動を描いた映画やディズニーのアトラクション名称が示す過去の差別の是正が叫ばれていること、高級ブランドのモデルやイメージが白人に偏っていること、一方で黒人作家の作品の評価やネットフリックスの社長が黒人学生の多く通う大学に多額の寄付をした記事など、アメリカの人種問題を反映した記事も選ばれるようになっていた。

【Ideas】

- 2ペア重複：COVID-19よりも銃によって命を落とす子供の数の方が多いという事実、コロナ禍で懸念される人種による教育格差の拡大を教師への支援によって防ぐべきだとの意見、コロナ禍でのオンライン個人データの共有、取り扱いについての提案。
- 顔や表情を隠すマスクへの強い抵抗感についての記事、パンデミック下でのメンタルヘルスの問題や、独立記念日での行動制限の緩みの記事も選ばれていた。
- なお、コロナと直接関連しない記事としては、黒人差別への反対を謳った書籍の著者の主張の記事1つが選ばれていた。

学生のLGBTQやBLM運動への関心

動画コメント (Flipgrid)

- 学生たちは選択した記事の英語プレゼンをFlipgridにアップロードすると同時に、3つ以上のプレゼンに動画でコメント。
- 学生たちの動画コメントを観察・分析すると、コロナの状況への共感を示しつつ、特に後半のトピックにおいては、LGBTQや黒人差別の問題にコメントが多く付けられ、発表を聞いて感じたことを英語で表現し、伝えようとしていたことが明らかになった。

先行研究で指摘された「異文化理解」への効果

期末省察アンケート結果

- Pair workで読んだ4つの選択記事の中で最も自分にインパクトを与えた、あるいは面白かったもの1つを選んでもらった。
- Healthが2名 (10%)、Scienceが3名 (15%)、Entertainmentが10名 (50%)、Ideasが5名 (25%)
- 特にEntertainmentに比重があったが、その理由には、ジェンダーやBLMへの関心、元々Entertainmentの分野を好む傾向にあった、ペアでしっかり話し合ったからなどの回答が見られた。

結果③ライティング課題（Webclass）

1. 課題記事に対し、レクチャーで内容を理解した後に、Webclassで300～400語のReviewを書いて提出→計4回
2. 教員がコメントとスコアをWebclassより返却

➤上記を4回繰り返す

- 提出されたReviewを学生同士も見れる設定にしていたが、ほとんどの学生は気づいていなかった
- 中間アンケートで主観的難易度を尋ねたところ、Reviewが最も難しいという結果であった（4段階中平均2.90）。これに対応するために「How to write a good review」という動画を作成し限定公開した。
- 期末課題では自分が新しく選んだ記事について、動画による紹介（Flipgrid）またはReview（Webclass）を選ばせたところ、1人を除いてReview（500語程度）を選んでいた。

教員フィードバックに見る変化

- 教員フィードバックにおいては、Reviewの書き方としてよい点、さらによくするためのヒント、そして書かれた内容についての個人的なコメントなどを英語で返すようにした。特に最初のころは、学生のReviewの英語の細かな文法正確性が気になっていた。
- Grammarlyの使用を推奨し、文法の単純な間違いが減ってくると、本文の抜き書きからの脱却を助言するコメントに変化した。Review 2でも、英語表現力が高く、よく書けている受講生には対しては、内容に共感するようなコメントを返していた。
- 3つめのReviewに入るころには、より多くの学生が自分の考えの部分に生活のことを含めてくるようになったため、Reviewの評価、向上のためのフィードバックを超え、Reviewの内容を媒介したパーソナルなコメントになっていた。Review 4でものように、Reviewを媒介として、学生とやりとりをするようなコメントを付けていた。
- 一方で、Review 3まではほぼすべて英語で返していたフィードバックが、Review 4では日本語を含めているものが7件、そのうちの3件が英語を含めない日本語のみのフィードバック、残りの4件でも英語より日本語の量が多い状況であった。日本語の使用は、受講生に明確に伝わるようにとの意識で使い分けていたが、Review 4の日本語部分を見ると文法使用や、提出すべき課題を間違っているミスなどがあり、それまで数回指摘したものの改善が見られなかったものをもう一度伝えようとしていたり、それまでの英語のフィードバックでは伝わっていないと判断したものの中心になっていたように見える。

結果④ 学生の間・期末省察（Formsアンケート）

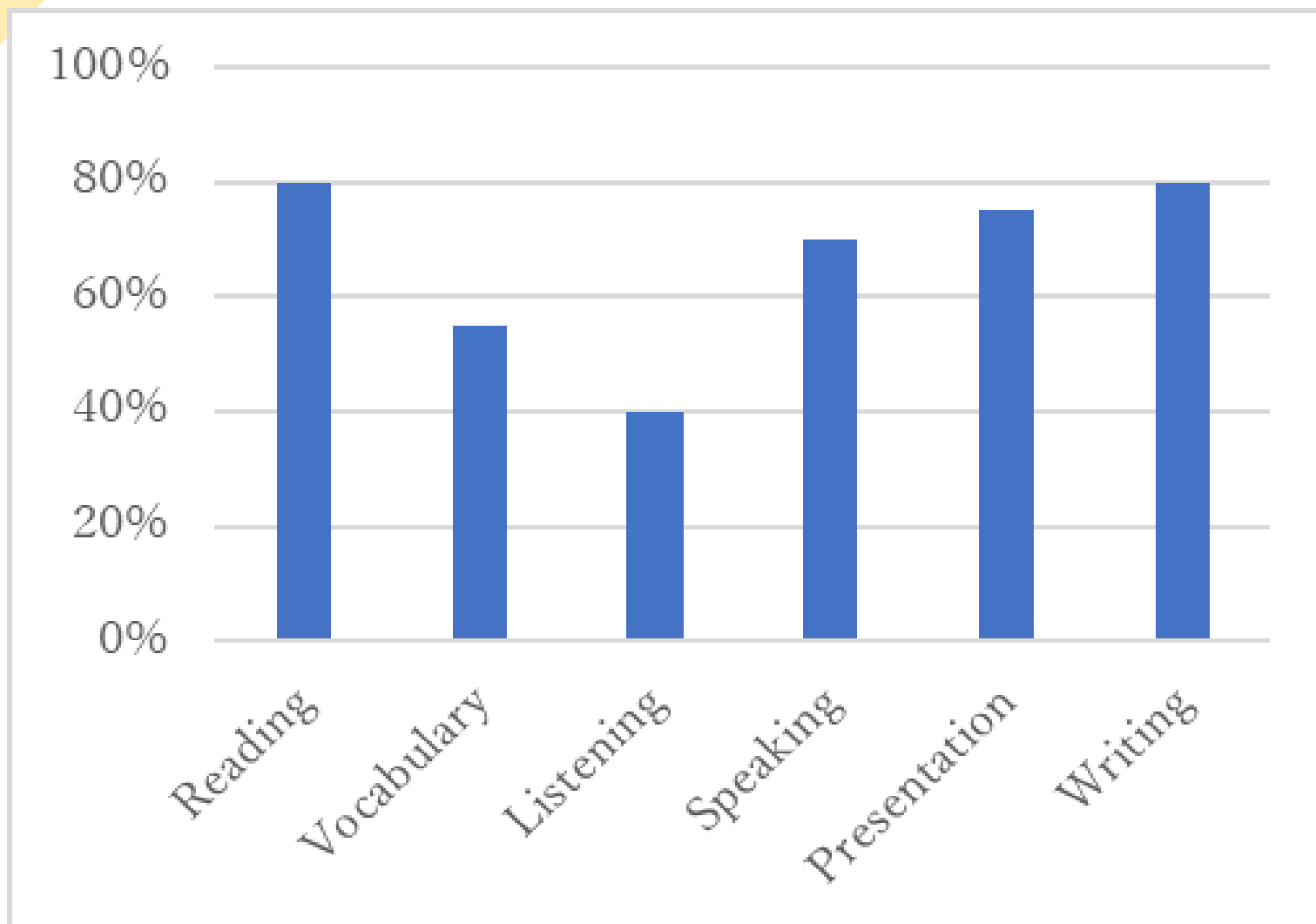
主観的難易度（中間）

- 受講生が最も難しいと感じていたのは課題記事に対する300から400語のReview（2.90）、次が選択した記事についての発表動画のFlipgridへの投稿だった（2.75）。しかし、3点が「やや難しい」を示すことを考えると、平均値はすべて3未満（4件法）だったことから、何とかついてこれる難易度の範囲内に収まっていた。
- Streamによるオンデマンド動画配信でフォローアップ

主観的役立ち度（期末）

- 平均値はすべての取り組みで3（ある程度役に立った）以上（4件法）と評価されていた。その中でも学生が最も役に立ったと感じたのは、授業内容の指示メールやリマインダー（3.90）であった。この学期は授業の急なオンライン化で、複数の講義の進み具合や課題を管理するのが難しかったことから好評だったと言える。第2位は、Teamsでのレクチャー（3.75）であった。

受講により伸びたと思うスキル（期末）



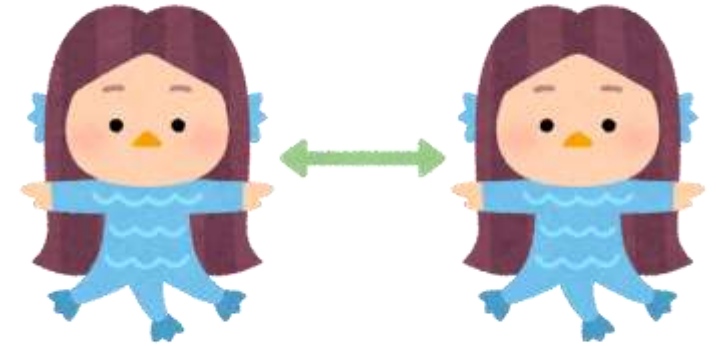
- ReadingとWritingが高く、Speaking/ Presentationも高めだった。
- 一方でListeningが低い
（Flipgridでお互いの動画を英語で視聴するだけでは弱い/意識されにくい？ OR あまり真剣に見ていない？）
- VocabularyはTIMEのReadingを通じて伸びたと思われるが、意識されにくい？

Afterthoughts ...

- 教室のアクティブラーニングをそのままオンラインに移し替えようとするのは効果的ではない
- 学生同士で授業時間外にグループで準備するのは難しい
- 課題が細かすぎ、多すぎることは学生にとって複雑となり、混乱を招く→同時にオンラインでは課題のやり取りがメインとなるため、提出された課題すべてに教員からのフィードバックが期待され、対応がかなり大変・・・
- プラットフォームの種類が多すぎるのも、学生にとって負担となる→教員のオンライン授業スキルも向上した今だったら、もっと別のより良い方法が取れると感じる（特に双方向性）

References (今年度版の論文原稿記載)

1. C. Valvona and M. Yoneda, Authentic materials in language learning: Definitions, advantages and disadvantages, and future directions of study, 沖縄キリスト教学院大学論集, vol.16, pp.1-10, 2019.
2. R. H. A. Azri and M. H. A. Rashdi, The effect of using authentic materials in teaching, International Journal of Scientific and Technology Research, vol.3, issue 10, 2014.
3. S.A. Berardo, The use of authentic materials in the teaching of reading, The Reading Matrix, vol.6, no.2, pp.60-69, 2006.
4. P. S. Rao, The effective use of authentic materials in the English language classrooms, Shanlax International Journal of Arts, Science and Humanities, vol.7, no. 1, pp.1-8, 2019.
5. J. Ryan, Authentic materials in an EFL curriculum: Appropriateness, selection, activity design and promoting global perspective, Shizuoka University of Art and Culture Bulletin, vol.14, pp.15-20, 2013.
6. P.グリフィン, B.マクゴー, E.ケア (編), 三宅なほみ (監訳), 益川弘如・望月俊男 (編訳), 21世紀型スキル: 学びと評価の新たなかたち, 北大路書房, 京都, 2014年.
7. 文部科学省, 平成29年改訂学習指導要領, 文部科学省, 東京, 2019年3月.



Thank you for
listening!

【教員の変化 番外編】

この授業では、レクチャースライド資料の最後にアマビエのイラストを使うようになりました。同時に他の授業でもスライドにイラストを入れるようになりました。